

株式会社オフィスビル総合研究所  
本田広昭

美しく、そして魅力的な都市に暮らしたい！20世紀、敗戦など幾多の困難から見事に蘇った日本。先輩たちのおかげで、世界有数の経済大国、そして安全で豊かな国となった。しかし、その復興の原動力は、勤勉さと経済合理性が支えであり、美しさまで手が回らなかったのかもしれない。残念ながら、自然を除くと日本の街並みや都市景観を美しいと思う人が少ないという現実がそれを物語っている。

日本の伝統や文化を代表する京都や奈良、鎌倉などにまで、電柱と電線が我が物顔で古都を覆い尽くしている様を目の当たりにしたニッポンびいきのフランス人いわく

「崇高な歴史と文化をもつニッポン人があのようなことを許すわけがない！

北斎や広重が生まれ育った国なのに……。そうだ、歌舞伎の黒子を見てみぬ振りができる民族にしかできないことなのかもしれない……。」電線を気にしだした日本人の実感を見事に言い当てた名言である。

「衣食足りて礼節を知る」のことわざ通り、豊かになったからこそ気付き始めた……。やや遅すぎたのかもしれないが、今度は幸せになれた我々の手で、美しく、そして魅力的な街並みや都市景観を復興して、次の世代に引き継ぐ責任があるのではないだろうか。

期待される「景観法」の制定は、その気があるのに為す術を見つけれなかった我々にとつたGOサインとなることを願いたい。

2005年に施行された景観法は、地域の美しさへの想いを上位概念として機能させようとする法律である。

景観の美しさを優先できなかった情けなさを二度と繰り返さないためにも。

法律は最終手段として必要不可欠なものであるが、今の時代を担っている世代が責任持つこと、そして美しく、魅力的な都市に暮らしたいと強く想うことではないだろうか。